



令和7年9月9日(火)～14日(日)までの間、木場漕カヌー競技場(石川県小松市)において令和7年度日本カヌースプリント選手権大会が開催された。自衛隊体育学校からはカナディアン(片漕ぎ)競技に4名、カヤック(両漕ぎ)競技に3名が出場し、それぞれが200m、500m及び1000mのペア(二人乗り)種目で優勝し、合計12個「金8個、銀3個、銅1個」のメダルを獲得した。また、シングル(一人乗り)種目では、合計5個「銀1個、銅4個」のメダルを獲得した。

佐藤光(さとうひかる)3等陸尉は、男子カナディアンペア種目の200m、500m及び1000mのすべてのペア種目で金メダルを獲得した。200mと1000mでは八角周平選手(センコーグループホールディングス株式会社)とペアを組み、500mでは吉田俊吾2等陸曹とペアを組み出場した。吉田2曹と組んだ500mでは2位と約1秒の差をつけて優勝を決め、大会最終日に行われた200mペア種目(八角選手とのペア)でも2位に約1秒差をつけて優勝を決めた。今大会を振り返り、佐藤3尉は「シングル種目では全て悔しい思いをしたので今大会で見た課題を次に繋げたい。ペア種目は絶対負けられない気持ちで臨み、特にオリンピック種目の500mは吉田2曹と組み確実に優勝できたので嬉しく思う。今後は来年のアジア大会出場に向けて更に練習していきたい。」と抱負を語った。



吉田俊吾(よしだしゅんご)2等陸曹は、佐藤3尉と組み優勝した男子カナディアンペア500mの他、シングル種目の200mと1000mに出場し、200mで銅メダル、1000mで銀メダルを獲得し出場した全ての種目で表彰台に上がった。大会後、吉田2曹は「今大会において佐藤3尉との500mペアでは優勝が必須だった。シングル競技の200mに関しては、準決勝まで感覚が悪かったが、天候不良による順延で時間ができたことにより、自分の動きを改めて確認し、決勝戦に臨め良い感覚でレースをすることができた。同じ種目でいつも優勝している選手に勝つため、そして来年のアジア大会でのメダル獲得のため3月の選考会で日本代表になれるよう、この冬の練習を頑張っていきたい。」と振り返った。



青木瑞樹（あおきみずき）3等陸曹は、男子カヤック競技シングル3種目（200m、500m、1000m）、ペア2種目（200m、500m）、そして男女混合ペア1種目（500m）の6種目に出場。このうち富塚晴之3等陸曹と出場したペア2種目で金メダル、細見茉弥選手（長野県カヌー協会）と組んだ男女混合ペア種目で銀メダル、シングル種目では1000mで銅メダルを獲得した。大会後、青木3曹は「今大会に向け調整はしっかりできたので持っている力は出せた。今回得た課題に対しこの冬取り組みたい。一番印象に残ったレースは、練習期間は少なかった男女混合ペアで0.07秒差で敗れたこと。このレースがとても悔しかった。」と今後の抱負と悔しさを語った。

**男子カヤックペア 200m・500m**



富塚晴之（とみつかはるゆき）3等陸曹は、男子カヤック競技シングル2種目（200m、500m）、ペア2種目（200m、500m）に出場し、青木3曹と組んだ2種目のペアで圧倒的な差を見せつけ金メダルを獲得した。シングル2種目でも銅メダルを獲得し、今大会4つのメダルを手にした。富塚3曹は大会を振り返り「今シーズン取り組んだ課題が成果に出た大会だった。ペアでは青木3曹に引っ張ってもらい優勝できたが、得意種目のシングル200mで最後まで粘りきれなかったことは悔しかった。今大会を通じて個の力不足を感じた。ペアでは個の力が大事になってくるので、今後この部分を伸ばしていき、来年のアジア大会で優勝しオリンピックに繋げる。」と五輪をしっかりと見据え、力強く語った。

今大会は雨、風、雷という天候不良が続きレースの時間変更や一部レースの中止が相次ぐ大会となった。特に風の影響は大きく、スタート直後は向かい風にスピードが乗らず苦戦している選手も多く見られた。このような状況の中、出場選手はことごとく変更される時程に対応するため自らのコンディションを整えながらの参戦となった。時程の変更により逐一对応しながら出場選手を支えたコーチ陣は「今大会を通じて選手の成長を感じた。来年の代表権獲得のために新たに目立った課題に対して取り組んでいく。また、ナショナルチームの中でも勝ち切れるよう選手と向き合い強化していきたい。」とコメントした。

監督の中島幸弘（なかしまゆきひろ）1等陸尉はこの荒れた6日間の大会を振り返り「今シーズンの成果としては、それぞれの選手が結果を出していた。世界選手権大会参加組においても、少ない時間の中で調整を行い、チームボートにおいて良い結果を出していた。シングル種目においても引き続き競技力を高めていきたい。若手2名については、素晴らしい成長を見せてくれた。2名とも決勝において入賞しており、今後の成長に期待をもてる。中岡2士については、U23においてメダルを獲得するための足掛かりとして非常に良かった。また、松葉1士については、藪コーチによる漕ぎ方の指導により大きな競技力向上が見えて非常に良かった。今後、女子カナディアンの主力選手となってもらいたい。それぞれの選手の課題と向き合いながら練習をして、3月の日本代表選考会において引き続き代表権を獲得したい。」と成果を語った。

その女子主力選手として期待される松葉優乃（まつばまの）1等陸士は「漕ぎを大きくすることを意識して練習してきたことが成果として現われた。初めての選手と組んだペア500m種目は、時間がない中での調整だったが準優勝できたことは良かった。また、昨年出場できなかった200mは苦手種目だったが、決勝まで進み良い感覚でレースできたのも練習の成果だと思う。3月の選考会に向けてさらに技術を身に付けられるように頑張りたい。」と代表権獲得に向けて力強く語った。



**総 合 成 績**

種目	氏名	階級	シングル 200m	シングル 500m	シングル 1000m	ペア 200m	ペア 500m	ペア 1000m	混合ペア 500m	フォア 500m
カナディアン	佐藤 光	3等陸尉	—	—	—	優 勝	優 勝	優 勝	—	—
カナディアン	吉田 俊吾	2等陸曹	3 位	—	2 位	—	優 勝	—	—	—
カヤック	青木 瑞樹	3等陸曹	—	4 位	3 位	優 勝	優 勝	—	2 位	—
カヤック	富塚 晴之	3等陸曹	3 位	3 位	—	優 勝	優 勝	—	—	—
カナディアン	熊井 雄弥	海士長	—	—	—	—	—	—	—	—
カナディアン	松葉 優乃	1等陸士	6 位	—	—	—	2 位	—	—	—
カヤック	中岡 誠琉	2等陸士	—	—	—	—	2 位	—	3 位	—